宮城民医連
東日本大震災

災害復興ニュース

ニュース =第100号=
発行日 2012年3月12日
発行 宮城民医連

本州では、最初に開花する河津桜（静岡県・3月10日） photo by SATORU JIMBA

震災当日、仙台の職場から自宅の七ヶ浜町に帰るための交通手段は全て寸断されていた。宮城民医連の事務所で眠れない夜を過ごし、まだ夜が明けきらない午前 4 時頃、タクシーを見つけ、自宅に辿り着いた。食器類は壊れているが、自宅は大丈夫だ。すぐにカメラを持って外に出た。しかし津波が自宅から数十メートルの近くまで来ているのには驚いた。まだ明けきらない闇の中で、仙台港の石油施設が炎上していた。そして日の出とともに、破壊された家屋、自動車などが目に飛び込んできた。

震災翌日の朝日の輝きは忘れない。まさに“太陽柱”とでも言うべきものだった。自宅の近くでは、消防隊による捜索・救助が始まっていた。自宅玄関には災害対策本部ニュース作成依頼のメモがあった。3 月 12 日朝、駆けつけた坂総合病院の玄関には、自衛隊の車両、救急車から患者が次々と搬送されてきていた。　（神馬　悟）

復興ニュース
100号記念

河津桜の花びらは綺麗なピンク色

悲しみを乗り越えて新しい旅立ち

3.11 東日本大震災の津波で、利用者さんを助ける為に亡くなられた“なるせの郷”の高橋まゆみさん。犠牲者追悼献花に来ていた息子の高橋友樹さんが、第一志望の一橋大学に合格したことが報告された。

友樹さんは、津波で母の高橋まゆみさんを失くし、自宅も全壊していたなかでの大変な環境だった。松島医療生協の職員から“合格おめでとう、東京での一人暮らしは大へんだぞ、卒業したら帰ってくるんだぞ”などたくさんの祝福を受けていた。息子さんが東京に行ってしまうことになるが、献花を終えてのお父さんと娘さんの 3 人には明るい表情があった。悲しみを乗り越えて訪れた新しい旅立ち。こころからおめでとう！（J）